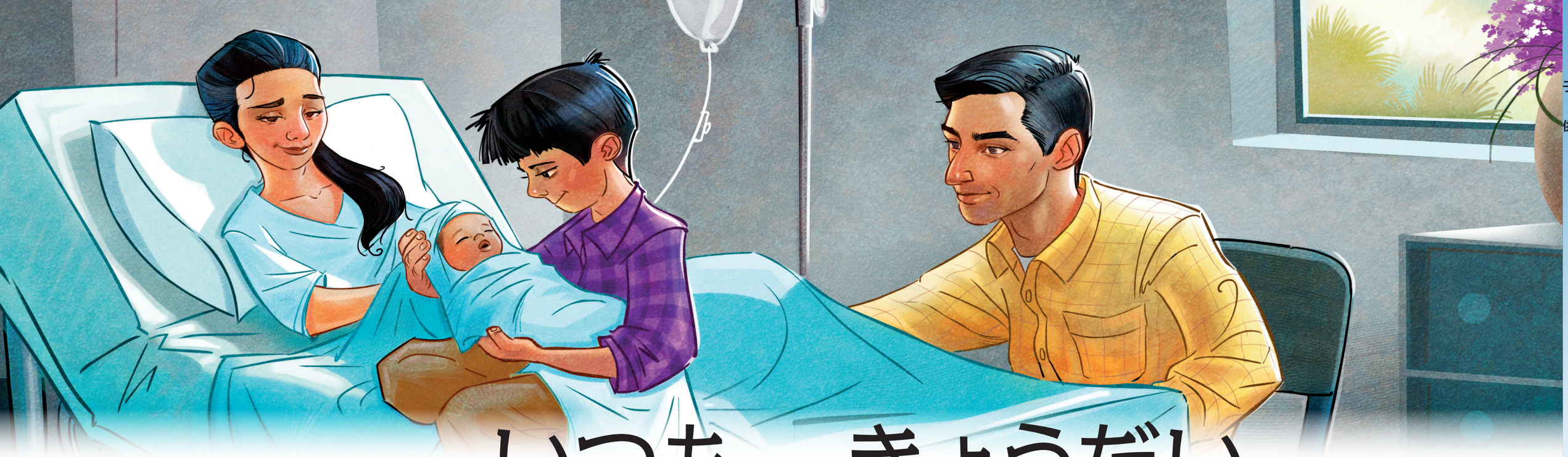

いつも　きょうだい

ジョーダン・ライト
ほんとうにあったお話をもとに書かれました。

「家族をみな結ぶ道を主は教えたもう」（『子供の歌集』98）

セスは後ろの席にすわって，おかしな歌を歌いながらピョンピョンしていました。「じっとしていてくれないか，セス」とお父さん。「集中して運転しないといけないんだよ。」

「落ち着いてなんかいられないよ」とセスは答えました。「だって，すごいんだもん！」

お父さんはにっこりしました。「セスが，新しい弟に会うのをそんなに楽しみにしてくれて，お父さん，うれしいよ。」

病院に着くと，セスはお母さんの部屋にかけていきました。お母さんはもう5日もそこにいるので，どこの部屋かは知っていました。赤ちゃんのカレブが病気で，お母さんも少し具合が悪くて，入院しなければならなかったのです。セスはカレブに会わせてほしいと，何万回もお願いしましたが，お母さんからはいつも「まだだめよ」と言われてしまいました。カレブが強くなって，お見舞いの人が来ても大丈夫かどうか，お医者さんたちが決めるのだそうです。

今日，お医者さんから電話がありました。ようやく今日きょかが出たのです！

セスが，お母さんが入院している部屋に行くと，お母さんはもうカレブをだっこしていました。セスは弟を見ようと，かけよりました。カレブはとっても小さくて，セスのいとこの赤ちゃんより，ずっと小さく見えました。鼻と耳が何だかちがっていました。小さな小人みたいに見えました。

「あら，セス」お母さんが言いました。「こっちに来て手をあらって。そうしたら赤ちゃんをだっこできるわよ。」

セスは特別な石けんで手をあらいました。病院のベッドに上ってお母さんのとなりにすわりました。お母さんは前かがみになって，赤ちゃんをだっこさせてくれました。お父さんが，ちゃんとだっこできるように，手を動かしてくれました。

セスはカレブを見て，「こんにちは，カレブ」と言いました。「ぼくが，お兄ちゃんのセスだよ。カレブはね，ぼくの部屋でねるんだよ。ぼくのおもちゃ，全部見せてあげるね。公園でいっしょに遊べるよ。」

赤ちゃんのカレブは，セスをじっと見ていました。セスは，カレブはいちばんいい赤ちゃんだと思いました。

セスのうでがつかれたので，今度はお父さんがカレブをだっこしてくれました。お母さんはセスの片手を取って，目をじっと見つめました。

そして，こう言いました。「セス，初等協会で，救いの計画について学んだことを覚えてる？」

イラスト／ジム・マドセン

セスは，うなずきました。その日は，とてもすてきな1日でした。ロペス先生は，ぼうに付けた月と星と大きな惑星の地球を持ち，セスは太陽を持ちました。

「わたしたちが地球に来る前，天に住んでいて，死んだらもう一度天に帰るということ，覚えている？」

セスはもう一度うなずきました。

「カレブはまだ重い病気なの。そしてお医者さんは，長くは生きられないだろうとおっしゃっているわ。カレブはもうすぐ死んで，天に帰るのよ。」

セスはお母さんを見ました。そして，お父さんにだっこされているカレブを見ました。そして，悲しそうな顔をしました。のどがつまりました。「でも，ぼく，カレブのことを愛してるのに。カレブにここにいてほしいし，ぼくの部屋で一緒にねてほしいし，一緒に遊んでほしいよ。カレブはここにいたくないの？」

お母さんはセスをうでの中にだいてこう言いました。「もちろん，カレブもわたしたちと一緒にいたいわ。家族ですもの。でも，もう一度会えるわ。」

「ほんとに？」

お母さんはうなずきました。「お父さんとお母さんは神殿で結婚して，永遠に家族として一緒にいられるという約束を受けたから。セスもカレブも，ずっとお父さんとお母さんの子供よ。」

「カレブは，ずっとセスの弟だっていうことだよ」とお父さんが説明してくれました。「天でまたカレブに会えるよ。」

セスは悲しい気持ちでした。何となく，いかりさえ感じました。でも，天でカレブにまた会えると思うと，少しにっこりしました。手をのばして，カレブのやわらかなかみの毛にさわりました。「天でもきょうだいでいられるんだね？　すてきなことだね。」

お母さんがセスのほほにキスしてくれました。「*ほんとにすてきなことね。*」■

このお話を書いた人は，アメリカ合衆国アイオワ州に住んでいます。

ほんとうの終わりはない

「天の御父の計画にほんとうの終わりはなく，あるのは永遠の始まりだけです。」

大管長会第二顧問　ディーター・F・ウークトドルフ管長

「どんな状況にあっても感謝する」『リアホナ』2014年5月号，77